

簡易で効率的なオイカワの増殖技術の開発

内水面研究所

背景、目的

近年、オイカワの漁獲量は低迷しており、従来の種苗放流の主力であった天然種苗の確保が困難になっており、漁業者が実施可能な増殖技術の開発が必要です。

このため、簡易かつ効率的なオイカワの増殖技術の開発を目的としました。

成果の概要

(1) 種苗生産の効率化

これまで経費と時間を要していた親魚の育成や採卵、稚仔魚の飼育が、餌料や飼育方法の改良で、省力・省コスト化が可能となりました。

- ・ 親魚：ウナギ用配合飼料で飼育した1歳魚を親魚に使用し、親魚の育成期間を短縮。
- ・ 採卵：大小2つのカゴ式産卵床（直径1～2cmの砂利をいれたプラスチック製のカゴ）を重ねた二重底式採卵器で採卵作業時間を20～40分の1に短縮。
- ・ 稚魚飼育：1万尾／トンの飼育密度で配合飼料を用いることで、コスト削減が可能。

(2) 産卵場造成技術開発

「砂利留めを施した直撒式の産卵場」と「移動式産卵床」により、河川や農業用水路でも産卵場の造成が可能となりました。また、産卵床造成の最適時期は水位が安定する7月後半であることを明らかにしました。

① 河川での産卵場の造成（砂利留めを施した直撒式の産卵場）

- ・ 場所の選定：流れが緩やかで水深が10～20cm
- ・ 場所の造成：大きな石を除去し、石でコの字状に砂利留めを設置
直径1～2cmの砂利を内側に厚さ5cm以上撒く

② 農業用水路での産卵場の造成（移動式産卵床）

- ・ 稲の育苗箱に直径1～2cmの砂利を敷き詰める
- ・ 水路または河川に設置し、水流で流されないように周囲を石で取り囲む

これらの開発した技術を県内の関係漁業者などに普及するため、「オイカワ種苗生産マニュアル」、「オイカワの産卵場づくり」の2冊の技術集を作成しました。



人工産卵場の造成例（左：砂利直撒き、右：移動式産卵床）